

# 6～7月に球根植える

花き編 **リコリス** — 古園郁郎



リコリスは中国や日本など東南アジアの温帯地域を原産とするヒガンバナ科リコリス属の球根植物の総称です。十数種あり、花色は赤、白、黄、桃、橙など彩り豊かで、早い種類は7月から、遅い種類では10月に開花します。秋の彼岸前後の9中・下旬、あぜ道などに群生して咲くヒガンバナも仲間です。

秋を告げる紅白のリコリス（ヒガンバナ）



そのほか、8月に咲くオレンジ色のキツネノカミソリやピンク色のナツズイセン、9月中・下旬に咲くシロパナマンジュシャゲ、10月上旬頃に鮮やかな黄色の花を咲かせるショウキズイセンなどがあります。いずれも鑑賞期間は短く、1週間ほどです。原種のほかに園芸品種も多く作られ、人々を魅了しています。

リコリスは何もない地面から花茎だけを伸ばして頂部に花を咲かせます。出葉期は花後すぐに葉が出る秋出葉型（ヒガンバナ、シロパナマンジュシャゲ、ショウキズイセンなど）と翌春に葉が出る春出葉型（キツネノカミソリ、ナツズイセンなど）がありますが、いずれも初夏になると葉は

すべて枯れます。

次に栽培のポイントを紹介します。リコリスは寒さや病害虫に強く、数年間植え続けられる丈夫な植物です。日当たりを好みますが、半日以上、当たれば大丈夫です。過湿をやや嫌い、排水良好な土壌を好みます。

6月頃に葉が枯れ始め休眠期に入るので、この頃から7月にかけて球根を植え付けます。根が深く伸びるので深く耕し腐葉土などをすき込みましょう。植え付け間隔は10～15センチほどで、球根の底部が深さ10センチほどになるようにします。

根は完全に休眠していないので、掘り上げた球根は乾燥しないうちに植え付けます。鉢植えの場合は赤玉土や腐葉土の配合土など、水はけと通気性、適度な保水力を兼ねた土が適しています。水やりは鉢植えでは夏に花茎が現れる頃から翌年の初夏に休眠するまでは、土が乾いたら十分に与えましょう。庭植えでは特に必要ありません。

花が終わったらリン酸、カリの割合の高い化成肥料を与えます。繁殖は分球で行い、初夏の植え替え時に子球をはずして、葉や根を切らないように丁寧に植え付けます。

フラワーパークかごしまでは、花広場周辺、大池周り、テーマガーデンなどに桃、赤、白、黄色のリコリスを植栽しており、9月上旬から下旬まで楽しめそうです。

(フラワーパークかごしま栽培管理課技術補佐)

平成25年9月19日(木) / 南日本新聞